

避難訓練に寄せて 2020.6.10

「避難訓練」 この言葉に皆さんはどれほどの思い入れをもっているでしょうか？正直言いまして、私も小学生の頃は少しわくわくしながら、中学生の頃はあまり意識もなく、言われるままに仕方なくやっています。

しかし、阪神・淡路大震災を経験し、その後も日本中で頻発する地震や台風による水害、果ては東日本大震災を目の当たりにしたうえ、30年以内に80%以上の確率で南海トラフ大地震も起こると言われればこれはもう他人事ではありません。避難訓練のおかげで大勢の命が助かった「釜石の奇跡」もあれば、町ぐるみで防災訓練をやっていたり、自治体もハザードマップを発行するなど、人々の防災意識は昔とは比べ物にならないくらい高まり、ふざけ半分で避難訓練に参加する人など、もういない時代になりました。

ただ「訓練」はあくまで「訓練」で、避難する人に都合よくできています。しかし災難はいつやってくるかわかりません。先生がいない休み時間、給食準備中、登下校中かも知れません。地震で窓ガラスが割れたり、階段の大きな鉄製の防火扉が反応して閉まり、階段は段差のある小扉でしか移動できないかも知れません。体が不自由な級友にも考えが及ばなくてははいけません。またあってはなりません、不審者侵入という人災も考えられます。

中学生は助けられる人から、助ける人になってもらいたいと思っています。そのためには自分が生き残る力と取り越し苦労でもいいので「あれ？あの人誰？」と違和感を感じたら、すぐ先生に報告する気づく力も高めてもらいたい。随分贅沢なお願いですが、君たちならやれると思っています。

では、あいにくの雨で運動場に避難することができなくなりましたので、津波対応の2次避難の訓練だけ、この後実施します。運動場への避難訓練はまたどこかで考え、最低でも学年単位で行いたいと思います。

最後に二見中は緊急地震速報が出たような地震の場合、原則「避難する」が前提です。直近では大阪地震の時、避難したことを伝えて先生の話が終わります。以上です。